

時間預託活動 (1月度)						
	提供活動	コーディネート	事務所提供	活動管理	当月計	年度計
時間数	29	0	8	5	42	589
人数	7	0	1	2		

奉仕活動 (1月度)						
	拠点活動	子育て	ナルク活動	その他	当月計	年度計
時間数	49	0	0	0	49	127
人数	8	0	0	0	0	

**読めますか？**

吟味 黒南風 肌理 験担ぎ

虚板 小晦日 ご利益 災禍

宛ら 三竦み 行脚 柵

市井 飛沫 僕 赤銅

ぎんみ くろはえ きめ げんかつぎ

こけ こつもごり ごりやく さいか

さながら さんすくみ あんぎゃ しがらみ

しせい しぶき しもべ しゃくどう

**時事川柳**  
(岐阜新聞入選作)

\* 失言の重さ知らない軽い人

\* 砲弾に怯えて暮らす寒い冬

はっとり勝弘  
(ナルク会員・岐阜市議会議員)

**日本の名画 ⑨**

カワイ ギョクドウ  
**川合玉堂**



鵜 飼

川合玉堂は、1873年、現在の一宮市木曾川町に筆墨紙商の長男（芳三郎）として生まれ、1881年8歳の時に一家は岐阜に移住します。絵には12歳頃から親しむようになり、13歳の時、京都の画家・青木泉橋が岐阜に来往すると夫人も翠蘋と号する美人画家で、芳三郎少年は青木夫妻の知遇を得て大いに刺激を受けたといわれます。

14歳には青木泉橋の紹介状を持って京都に上り四条波・望月玉泉の門に入り日本画を修業します。23歳になると上京して（移住して）橋本雅邦に師事します。1915年（42歳）には東京美術学校日本画科教授に任ぜられ、日本画壇の中心的存在の一人になっていました。

日本の四季の山河と、そこに生きる人間や動物の姿を美しい墨線と彩色で描くことを得意としていました。

1917年にはフランス政府からレジオンドヌール金賞、1933年にはドイツ政府から赤十字第一等名誉賞を授与されました。

1940年 文化勲章受章  
昭和32年（1975）没 享年84才

**松下幸之助（一日一話より） 同行二人**

弘法大師さんが開かれた高野山にある霊場に詣でる人びとの菅笠には、みな一様に“同行二人”と書いてある。どこにしようと、どこに行こうと、自分は一人ぼっちではない、いつもお大師さまと二人という意味である。つまり、これら信仰三昧の人びとの心の中には、いまもなお大師は生き生きと存在しておられるのである。

もちろん、大師の生身の身体が、そのままここにあるというわけではない。しかし、大師はいまもなおここにおわすと感じること、また感じようとつとめるところに、大師の教えが永遠に生きてくることになる。真理は永遠に生きるというのは、こんな姿を言うのであろうか。